

事業概要

平成 28 年度



山梨県食肉衛生検査所

〒406-0034 山梨県笛吹市石和町唐柏 1028

電話 055-262-6121

F A X 055-263-9528

E-mail: shokuniku@pref.yamanashi.lg.jp

目 次

第1章 総 説

| | | | | |
|---|-------------------------|---|---|----|
| 1 | 検査所の沿革 | 1 | - | 1 |
| 2 | 関係条例 | 1 | - | 2 |
| | (1) 山梨県行政組織規則 | 1 | - | 2 |
| | (2) 山梨県行政機関等の設置に関する条例 | 1 | - | 2 |
| | (3) 山梨県事務決裁規則 | 1 | - | 3 |
| | (4) 山梨県職員給与条例 | 1 | - | 4 |
| | (5) 山梨県職員の給与に関する規則 | 1 | - | 5 |
| | (6) 山梨県職員の勤務時間の特例に関する規程 | 1 | - | 5 |
| 3 | 食肉衛生検査所の組織・構成 | 1 | - | 6 |
| 4 | 検査所の概要 | 1 | - | 7 |
| | (1) 施設の概要 | 1 | - | 7 |
| | (2) 平面図 | 1 | - | 7 |
| | (3) 案内図 | 1 | - | 9 |
| | (4) 主要備品の一覧表 | 1 | - | 10 |
| 5 | 山梨県と畜・食鳥検査手数料 | 1 | - | 11 |
| 6 | と畜場・食鳥処理場一覧表 | 1 | - | 11 |
| 7 | 処理場の開場状況 | 1 | - | 11 |

第2章 事業概要

| | | | | |
|---|--------------------|---|---|----|
| 1 | 事業の内容 | 2 | - | 1 |
| 2 | 食肉関係 | 2 | - | 1 |
| | (1) 年度別食肉検査状況 | 2 | - | 1 |
| | (2) 平成28年度と畜場別検査頭数 | 2 | - | 2 |
| | (3) 月別検査頭数 | 2 | - | 2 |
| | (4) とさつ禁止、廃棄状況 | 2 | - | 3 |
| | (5) 病名別一部廃棄状況 | 2 | - | 4 |
| | (6) 衛生指導 | 2 | - | 6 |
| | (7) フィードバック事業 | 2 | - | 6 |
| 3 | 食鳥関係 | 2 | - | 7 |
| | (1) 年度別検査羽数及び廃棄状況 | 2 | - | 7 |
| | (2) 平成28年度検査結果 | 2 | - | 8 |
| | (3) 衛生指導 | 2 | - | 9 |
| | (4) フィードバック事業 | 2 | - | 9 |
| 4 | 精密検査関係 | 2 | - | 10 |
| | (1) 精密検査実施状況 | 2 | - | 10 |
| | (2) 各検査室における検査内容 | 2 | - | 11 |
| 5 | 食肉衛生推進事業 | 2 | - | 15 |
| 6 | 研 修 | 2 | - | 16 |

第3章 調査・研究発表

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
| 1 | 山梨県内の食鳥処理場搬入鶏から分離された <i>Salmonella</i> Agona の薬剤感受性及び分子疫学的検討 | 3 | - | 1 |
| 2 | 大規模食鳥処理場に出荷された銘柄鶏のカンピロバクター保有状況と農場における汚染状況 | 3 | - | 2 |
| 3 | 豚の肝臓 | 3 | - | 5 |
| 4 | 馬の肝臓 | 3 | - | 6 |

第1章 総 説

1. 検査所の沿革

- 昭和38. 3. 14 山梨県枝肉センターの発足に伴い、公衆衛生課からと畜検査員派遣
昭和38. 4. 1 石和保健所に、と畜検査係が新設され、山梨県枝肉センターで行うと畜検査を担当する。
- 昭和42. 11. 1 山梨県枝肉センターは、(株)山梨県食肉公社となる。
- 昭和44. 3. 31 町営上野原と畜場廃止
- 昭和46. 4. 1 山梨県食肉衛生検査所発足、(株)山梨県食肉公社内の既設建物の一部を仮庁舎とする。県下6と畜場を所管
石和保健所と畜検査係廃止
- 昭和48. 2. 21 鯉沢と畜場廃止
- 昭和48. 7. 5 山梨県食肉衛生検査所庁舎を建設する。
敷地面積 652.83m²
庁舎本館 鉄筋コンクリート2階建 328m²
附属建物 車庫、動物飼育室、ブロック造平屋建 40m²
附属施設 プレハブ倉庫
- 昭和49. 3. 31 峡東と畜場廃止
- 昭和49. 4. 1 次長制が設置される。
- 昭和50. 7. 11 巨摩と畜場廃止
- 昭和59. 7. 20 葦崎と畜場移転廃止
- 昭和59. 7. 21 葦崎食肉センター発足
- 平成 3. 4. 1 食鳥法関係の事務を所掌する。
- 平成 3. 9. 1 (株)山梨県食肉公社は(株)山梨食肉流通センターとなる。
- 平成 4. 1. 10 山梨県食肉衛生検査所新庁舎起工式
- 平成 4. 1. 23 葦崎食肉センター廃止
- 平成 4. 4. 1 山梨県行政組織規則の一部改正により、検査第一課・検査第二課の2課制となる。
「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」の発足
甲斐食産(株)及び山梨チキン事業協同組合において食鳥検査開始。
- 平成 4. 11. 8 新庁舎へ移転
- 平成 5. 3. 25 新庁舎 竣工式
敷地面積 903m²
建物延面積 918m²
本館 鉄筋コンクリート造 3階建 752m²
附属建物 鉄筋コンクリート造 2階建 110m²
附属施設 軽量鉄骨造(車庫) 56m²
- 平成 9. 3. 31 富士吉田食肉センター廃止
- 平成10. 1. 5 山梨チキン事業協同組合休止
- 平成11. 9. 30 " 廃止
- 平成11. 11. 1 甲斐食産(株)許可(八代町)
- 平成13. 10. 18 BSE検査開始
- 平成14. 3. 12 BSE検査室整備
- 平成14. 11. 1 甲斐食産(株)休止(石和町)

2. 関係条例(抜すい)

(1) 山梨県行政機関等の設置に関する条例

(昭和六十年三月二十九日山梨県条例第二号)

(食肉衛生検査所)

第十条 法第一百五十六条第一項の規定により、と畜場法(昭和二十八年法律第百十四号)、食品衛生法(昭和二十二年法律第二百三十三号)及び食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律(平成二年法律第七十号)に基づく事務を分掌させるため、食肉衛生検査所を設置する。

2 食肉衛生検査所の名称、位置及び所管区域は、次のとおりとする。

| 名 称 | 位 置 | 所 管 区 域 |
|------------|-------|---------|
| 山梨県食肉衛生検査所 | 笛 吹 市 | 県 下 全 域 |

(2) 山梨県行政組織規則

(昭和四十三年三月三十日山梨県規則第十二号)

第三章 出先機関

第一節 設備内部組織及び事務分掌

(設置及び内部組織)

第十六条 各部等の事務を所掌させるため、次に掲げる出先機関を置く。

2 前項の出先機関の位置は、別表第三のとおりとする。

(別表第三)

| 出先機関 | 課 | 位置 |
|---------|----------------|-------|
| 食肉衛生検査所 | 検査第一課 検査第二課 | 笛 吹 市 |

6 出先機関の分掌事項は、別表第五のとおりとする。

(別表第五)

| | |
|---------|--|
| 食肉衛生検査所 | 一 獣畜のとさつ又は解体の検査に関すること。 二 とさつ解体の禁止及び措置の命令に関すること。 三 設置者等に対し、県が必要と認める報告の徴収及び立入り検査に関すること。 四 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関すること。 |
|---------|--|

第十八条 食肉衛生検査所に次長を置く。

15 次長は、上司の命を受け、その所掌事務を整理し、所長を補佐する。

(3)山梨県事務決裁規則

(昭和四十三年三月三十日山梨県規則第十三号)

第一章 総 則

(定義)

第二条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるものとする。

六 所長 組織規則第十七条第一項に規定する出先機関の長をいう。

八 専決 知事の権限に属する事務の一部を常時知事に代わって所長及び出先次長限りで決裁すること。

(所長の専決事項)

第五条 所長の専決事項は別表第一、第二のとおりとする。(以下概要)

1 所長の共通専決事項(別表第一)

- | | |
|----|--|
| 1 | 所属職員の事務分掌に関すること。 |
| 2 | 所長及び次長の旅行の命令及びその復命の受理に関すること。 |
| 3 | 所長及び次長の年次有給休暇の付与、有給休暇、介護休暇及、職務に専念する義務の免除の承認及び週給日の振替に関すること。 |
| 4 | 地方公務員の育児休業等に関する法律の規定による部分休業の承認に関すること。 |
| 5 | 所長、次長の時間外勤務、休日勤務及び当直勤務の命令並びに時間外勤務代休時間及び休日の代休日の指定に関すること。 |
| 6 | 臨時的任用(出先機関に係る二月以内の期間のもの)に関すること。 |
| 7 | 所属職員の身分証明書の書換えの検認に関すること。 |
| 8 | 通知、申請、照会、回答、報告、届出及び進達並びに督促に関すること。 |
| 9 | 所掌事務に係る証明書等に関すること。 |
| 10 | 登記嘱託に関すること。 |
| 11 | 行政財産の使用許可に関すること(電柱、ガス管、水道管、その他これらに類する物の設置及び継続使用に係るものに限る。) |
| 12 | 行政文書の開示の決定に関すること。 |
| 13 | 個人情報の開示及び訂正の決定に関すること。 |
| 14 | その他前各号に準ずる事項に関すること。 |

2 所長の固有専決事項（別表第二）

| 食肉衛生検査所 |
|--|
| 一 と畜場法の規定による次の事項 1 と畜頭数の制限に関する事。こと。 2 獣畜のとさつ又は解体の検査に関する事。こと。 3 とさつの解体の禁止等の措置及び措置命令に関する事。こと。 4 自家用とさつの届出の受理に関する事。こと。 5 と畜場外とさつの届出の受理又は許可及び必要な措置に関する事。こと。 6 と畜場の設置者等に対する県が必要と認める報告の徴収及び立入検査に関する事。こと。 7 都道府県等食品衛生監視指導計画に関する事。こと。 |
| 二 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律の規定による次の事項（認定小規模処理業者に係るものを除く。） 1 食鳥処理業者等に対する報告の徴収及び立入り検査に関する事。こと。 2 食鳥検査に関する事。こと。 3 食鳥のとさつ等の禁止、食鳥の隔離等に係る命令若しくは職員の執行又は食鳥の廃棄等に係る職員の執行に関する事。こと。 |
| 三 食品衛生法の規定による次の事項 1 と畜場及び食鳥処理場（認定小規模処理業者に係るものを除く。）に対し県が必要と認める報告の徴収及び臨検検査に関する事。こと。 2 と畜場及び食鳥処理場（認定小規模処理業者に係るものを除く。）における食肉の収去及び検査に関する事。こと。 3 と畜場及び食鳥処理場（認定小規模処理業者に係るものを除く。）における食肉の廃棄並びにその他と畜場及び食鳥処理場（認定小規模処理業者に係るものを除く。）における食品衛生上の危害の除去のために必要な措置命令。 |

(4) 山梨県職員給与条例

（昭和二十七年十一月二十七日山梨県条例第三十九号）

（給料の調整）

- 第十一条 人事委員会は、給料月額が職務の複雑、困難若しくは責任の度又は勤労の強度、勤務時間、勤労環境その他の勤労条件が同じ職務の級に属する他の職に比して著しく特殊な職に対して適当でないとき、その特殊性に基づき、給料月額につき適正な調整額表を定めることができる。
- 前項の規定による給料の調整額は、その調整前における給料月額の百分の二十五をこえてはならない。
 - 第一項の調整額表の適用は、その職員が同項に規定する職にある期間に限るものとする。

(5)山梨県職員の給与に関する規則

(昭和三十二年十一月二十六日山梨県人事委員会規則第七号)

(給料の調整)

第三十条 条例第十一条の規定により給料の調整を行う職は、別表第十の勤務箇所欄に掲げる勤務箇所に勤務する同表の職員欄に掲げる職員の占める職とする。

- 2 職員の給料の調整額は、当該職員に適用される給料表及び職務の級に応じて別表第十一に掲げる調整基本額に、その者に係る別表第十の調整数欄に掲げる調整数を乗じて得た額とする。ただし、その額が給料月額百分の二十五を超えるときは、給料月額百分の二十五に相当する額とする。

(別表第十)

| 勤務箇所 | 職員 | 調整数 |
|---------|---|-----|
| 食肉衛生検査所 | (1) 常時と畜検査及び食鳥検査に従事する職員 | 三 |
| | (2) 所長及び次長 | 一 |
| | (3) (1)から(2)までに掲げる者以外の者で人事委員会が調整を必要と認めるもの | 一 |

(別表第十一) 調整基本額表(抜すい)

行政職給料表

| 職務の級 | 調整基本額 |
|------|---------|
| 1 級 | 6,600円 |
| 2 級 | 8,500円 |
| 3 級 | 9,600円 |
| 4 級 | 10,200円 |
| 5 級 | 10,600円 |
| 6 級 | 11,200円 |
| 7 級 | 12,100円 |
| 8 級 | 12,700円 |
| 9 級 | 14,300円 |

(6)山梨県職員の勤務時間の特例に関する規程

(昭和三十二年六月一日山梨県訓令甲第十七号)

(目的)

第一条 この訓令は、山梨県職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例(昭和二十八年山梨県条例第五号)第二条第五項、第四条第一項及び第六条第四項の規定に基づき、山梨県職員の勤務時間の特例に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(勤務時間等)

第二条 この訓令の規定の適用を受ける職員の範囲並びに当該職員の勤務時間、休憩時間及び週休日の特例は、別表のとおりとする。

別表（第二条関係）

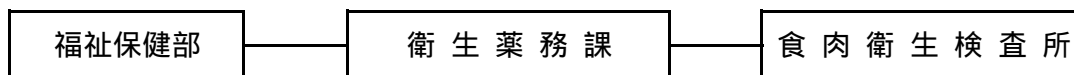
| 職 員 | 勤 務 時 間 | 勤務時間及び勤務時間の割振り | 休 憩 時 間 |
|----------------|-----------------------------|-----------------------|----------------------|
| 食肉衛生検査所に勤務する職員 | 四週間について百五十五時間（ただし、休憩時間を除く。） | 勤務時間の割振り は、所長が定める。 | 一時間とし、その割振りは、所長が定める。 |

| 週 休 日 |
|----------------------------------|
| 日曜日及び所長が四週間ごとの期間について定める日曜日以外の四の日 |

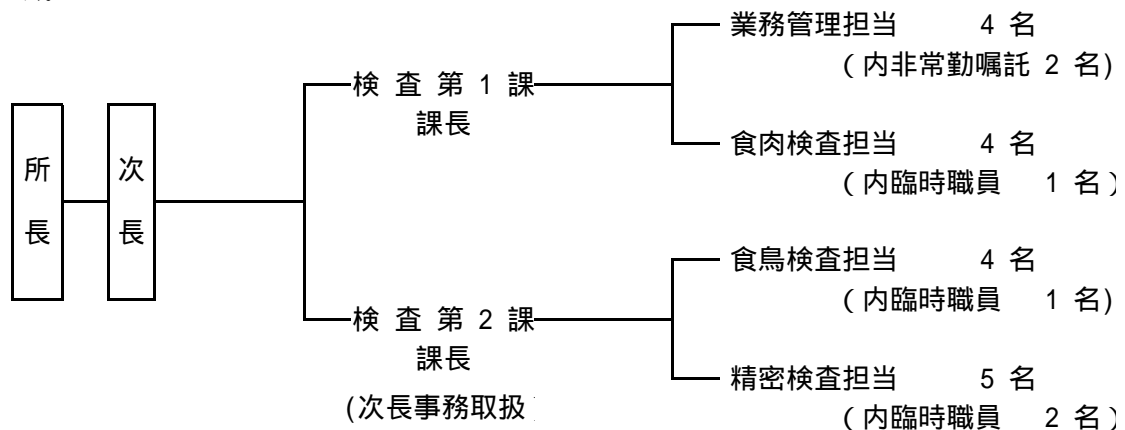
3. 食肉衛生検査所の組織・構成

（平成28年4月1日現在）

組 織



構 成



| | | | |
|------|----|-------|------|
| 職員総数 | 20 | 技術職 | 14名 |
| | | 非常勤嘱託 | 2名 |
| | | | (技1) |
| | | 臨時職員 | 4名 |
| | | | (技2) |

4 . 検査所の概要

(1) 施設の概要

・敷地面積 903 m²

・建物延面積合計 918 m²

・建物の構造

| | | | | |
|----|-------------------------|----|-----|--------------------|
| 本館 | 鉄筋コンクリート | 3階 | 延面積 | 752 m ² |
| 1階 | 事務室、休憩室、解剖室、更衣室 | 外 | 259 | m ² |
| 2階 | 理化学検査室、病理検査室、研修室 | 外 | 248 | m ² |
| 3階 | 生物科学検査室(細菌、ウイルス)、冷蔵冷凍庫室 | | 232 | m ² |
| R階 | P3関係機械室 | | 13 | m ² |

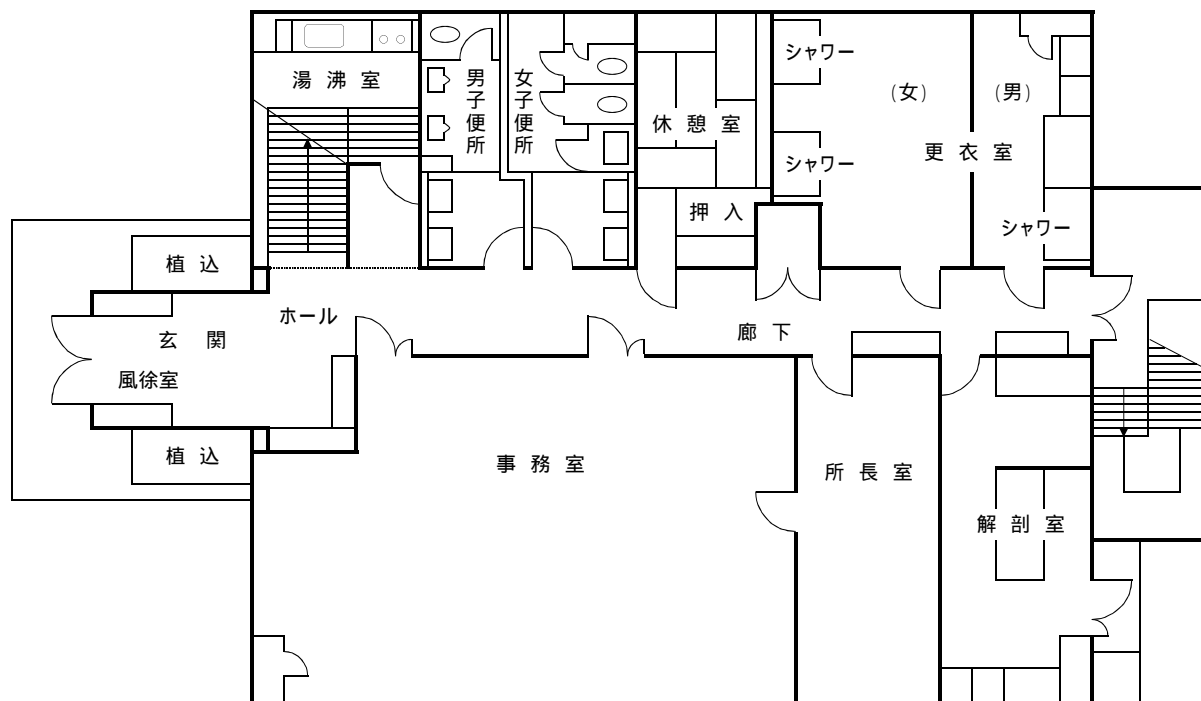
| | | | |
|------|----------------|-----|--------------------|
| 附属建物 | 鉄筋コンクリート造 | 延面積 | 110 m ² |
| 1階 | 受水槽、変電室、発電室 | 外 | 58 m ² |
| 2階 | 実験動物飼育室、実験室、倉庫 | 外 | 52 m ² |

附属施設

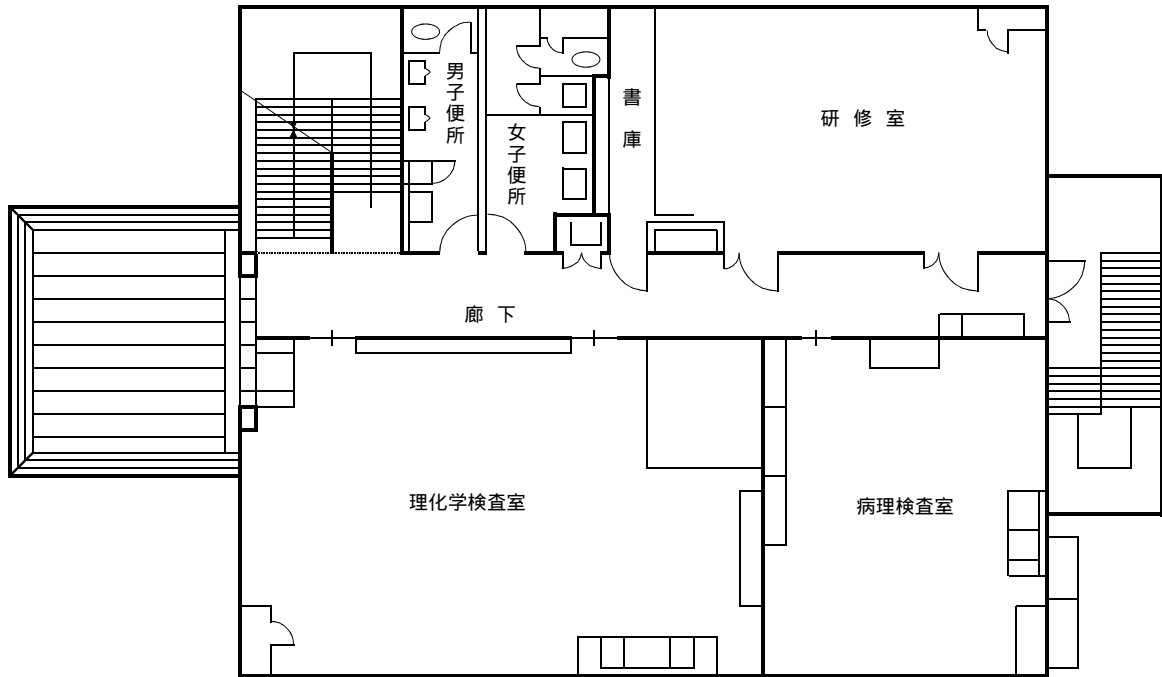
| | | |
|----|------------|-------------------|
| 車庫 | 軽量鉄骨造 (車庫) | 56 m ² |
|----|------------|-------------------|

(2) 平面図

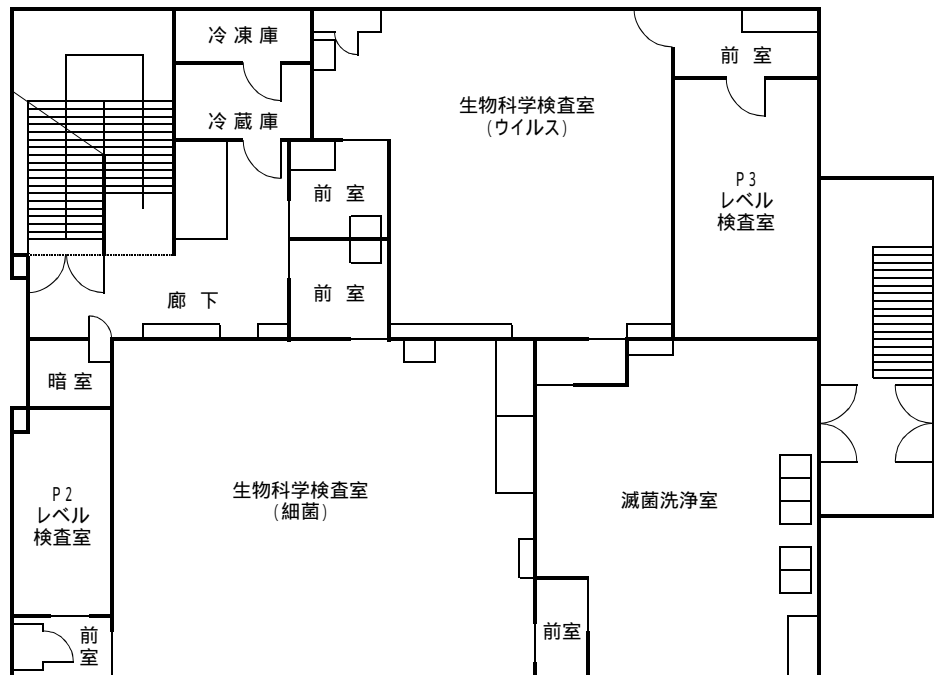
(1階)



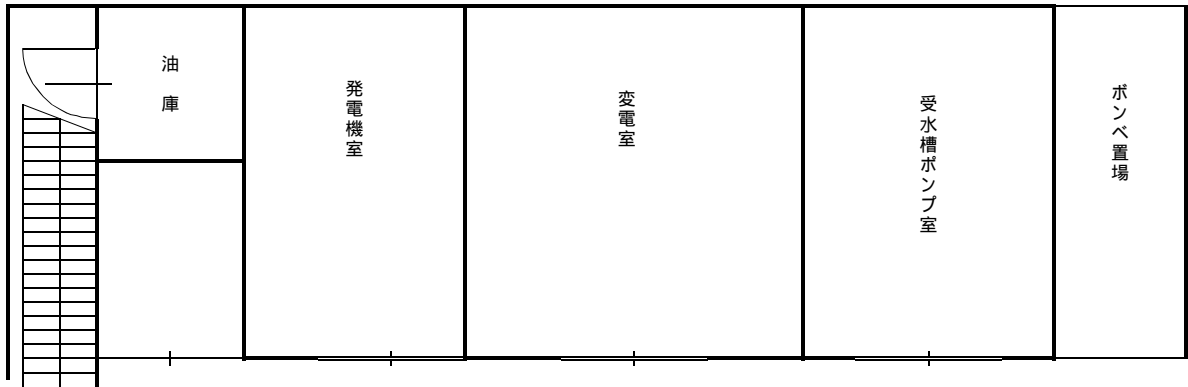
(2階)



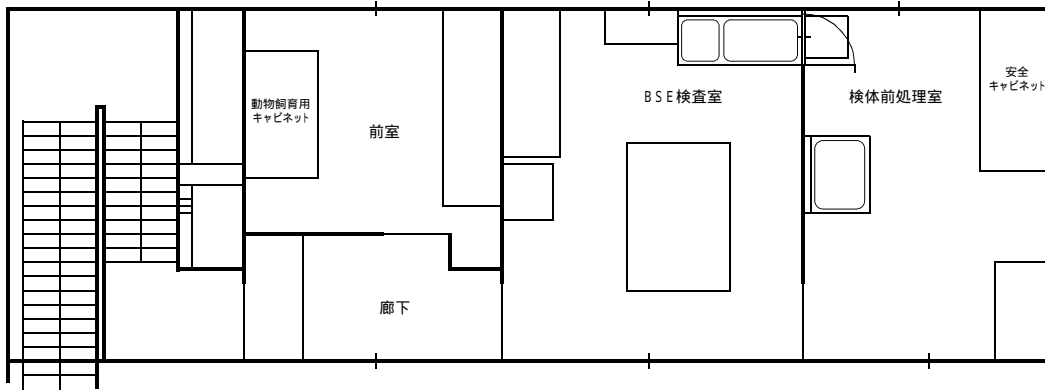
(3階)



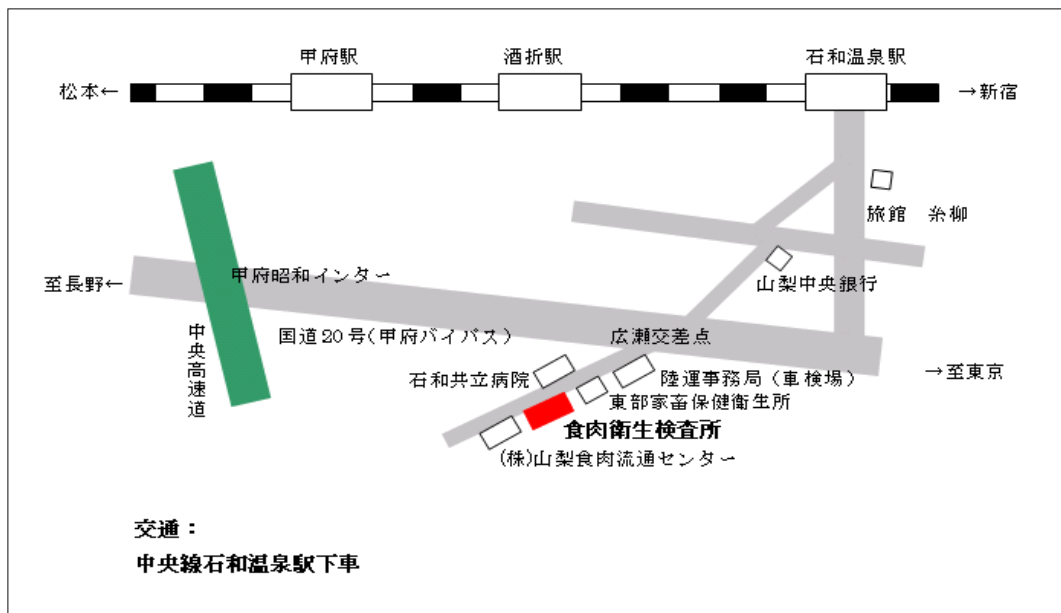
(別棟1階)



(別棟2階)



(3) 案内図



(4) 主要備品の一覧表

| 品 名 | 規 格 品 質 |
|-----------------------|---|
| デ ィ ー プ フ リ ー ザ ー | サンヨー MDF - 3 8 2 A T |
| 超 低 温 フ リ ー ザ ー | サンヨー MDF - U 5 8 2 A T - P J |
| 安 全 キ ャ ビ ネ ッ ト | 日立 SVC - 1 3 0 2 E L C |
| 純 ・ 超 純 水 製 造 シ ス テ ム | 日本ミリポア EQP - 3 S システム |
| 蛍 光 顕 微 鏡 | ニコン X 2 F - E F D 2 |
| 倒 立 顕 微 鏡 | ニコン T M D 2 S |
| リアルタイム PCR 用 DNA 増幅装置 | TakaRa Thermal Cycler Dice Real Time System |
| D N A 増 幅 装 置 | Biometra TProfessional Thermocycler |
| 自 動 洗 浄 器 | サンヨー M J W 8 0 0 0 |
| 全 自 動 血 球 計 算 器 | 日本光電 MEK - 6 3 5 8 |
| 動物用生化学自動分析装置 | 富士ドライケム 7 0 0 0 V |
| フォトダイオードアレイ検出器 | 島津 SPD - M 6 A |
| ド ラ フ ト チ ャ ン バ ー | ダルトン DP - 1 1 1 K - 1 8 0 0 |
| 高 速 液 体 ク ロ マ ト グ ラ フ | 島津 LC - V P シリーズ |
| 自 動 包 埋 装 置 | 白井器機 1 4 0 0 - 3 型 |
| パラフィン包埋ブロック作製装置 | ティッシュエンベディングコンソール # 4 5 9 6 |
| 滑 走 式 ミ ク ロ ト ー ム | ライカ J U N G S M 2 0 0 0 R |
| 凍 結 組 織 切 片 作 製 装 置 | マイルス社 4 5 5 1 |
| ク リ ー ン ベ ン チ | 日本エアテック BCM 1 3 0 2 W |
| 安全キャビネット (B S E 用) | 日本エアテック BHC - 2 2 0 3 A / B 3 |
| 安全キャビネット付き飼育装置 | B E S T E X B C C - 1 6 0 0 A - N C R P |
| 多 検 体 細 胞 破 碎 機 | 安井器機 MB 5 2 4 TMA |
| マイクロプレート用自動吸光度計 | ラボシステムズ マルチスキャンバイクロマティック |

5. 山梨県と畜・食鳥検査手数料

| 畜種 | 牛 | とく | 馬 | 豚 | 山羊 | 食鳥 | 備考 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|--------------|
| 金額 | 750 | 320 | 750 | 320 | 180 | 5 | 証明手数料 400 |

とく…1才未満の牛

平成7年4月1日 改正

(食鳥 平成4年4月1日)

6. と畜場・食鳥処理場一覧表

| 処理場名 | 区分 | 所在地 | 設置者 | 電話 |
|---------------|----|---------------|-----------------|--------------|
| (株)山梨食肉流通センター | 私営 | 笛吹市石和町唐柏 1028 | 代表取締役 桜井和巳 | 055-262-2288 |
| 山梨県畜産酪農技術センター | 県営 | 中央市乙黒 963-1 | 山梨県知事 | 055-273-6441 |
| 甲斐食産株式会社 | 私営 | 笛吹市八代町米倉 1447 | 代表取締役社長 米山義智 | 055-265-5050 |

7. 処理場の開場状況

と畜場 月曜日～金曜日(土曜日開場随時)

AM 7:45 ~ PM 4:30

食鳥処理場 月曜日～土曜日

AM 6:30 ~ PM 3:15

第2章 事業概要

1. 事業の内容

- 1 食肉検査……生体検査、内臓検査、枝肉検査
- 2 食鳥検査……生体検査、脱羽後検査、内臓摘出後検査
- 3 精密検査……理化学検査、病理検査、生物科学検査
- 4 衛生検査……監視指導、ふきとり検査、講習会の開催

2. 食肉関係

衛生対策

健康な家畜の搬入、生産段階からの衛生管理の徹底を図るため、生体の汚染状況、疾病の発生状況について生産者及び臨床獣医師に検査結果等の情報をフィードバックしている。

また、県食品衛生監視指導計画に基づき、と畜場・併設食肉処理場の監視を行った。さらに、施設及び枝肉の細菌検査を行い、衛生管理責任者及び作業衛生責任者を中心に講習会・勉強会を実施し、食肉衛生の向上に努めた。

と畜検査の推移

処理頭数は、豚、牛および馬は減少し、めん羊は増加した。

廃棄頭数は、牛については敗血症による全部廃棄が多く、豚については豚丹毒による全部廃棄が多かった。

(1) 年度別食肉検査状況

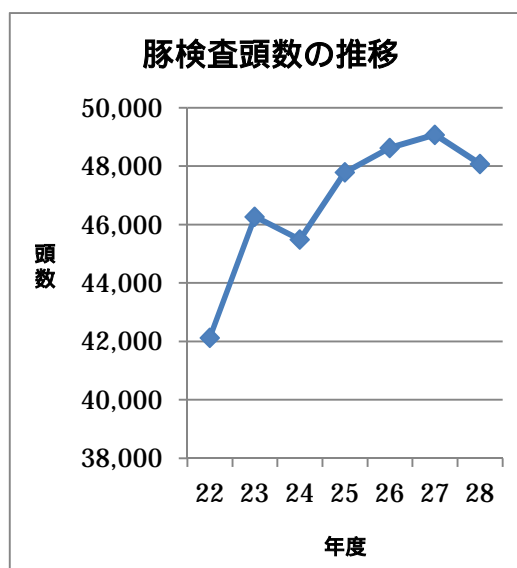
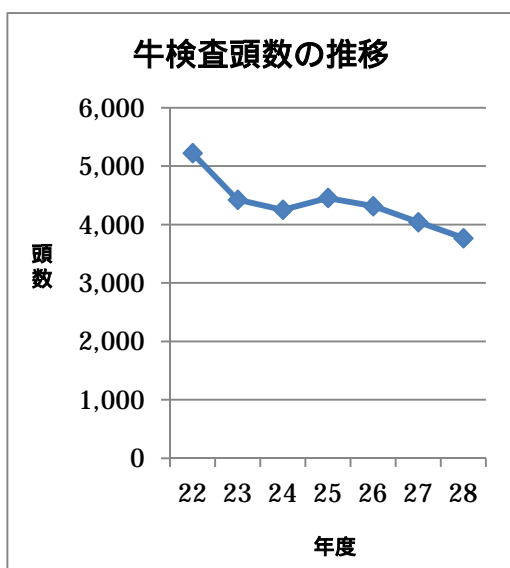
| 年度 \ 区分 | 牛 | とく | 馬 | 豚 | めん山羊 | 計 |
|---------|-------|----|-----|--------|------|--------|
| 22年 | 5,225 | 36 | 498 | 42,125 | 4 | 47,888 |
| 23年 | 4,426 | 51 | 478 | 46,270 | 20 | 51,245 |
| 24年 | 4,251 | 31 | 950 | 45,486 | 18 | 50,736 |
| 25年 | 4,454 | 47 | 655 | 47,789 | 18 | 52,963 |
| 26年 | 4,315 | 25 | 702 | 48,624 | 22 | 53,688 |
| 27年 | 4,042 | 28 | 649 | 49,077 | 9 | 53,805 |
| 28年 | 3,767 | 37 | 542 | 48,077 | 28 | 52,451 |

(2)平成 28 年度と畜場別検査頭数

| 処理場名 | 畜種 | 開場日数 | 肉用牛 | 乳用牛 | とく | 馬 | 豚 | めん羊 | 山羊 | 合計 |
|---------------|----|------|-------|-------|----|-----|--------|-----|----|--------|
| (株)山梨食肉流通センター | | 254 | 2,720 | 1,047 | 37 | 542 | 48,077 | 28 | 0 | 52,451 |
| 山梨県畜産酪農技術センター | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 254 | 2,720 | 1,047 | 37 | 542 | 48,077 | 28 | 0 | 52,451 |

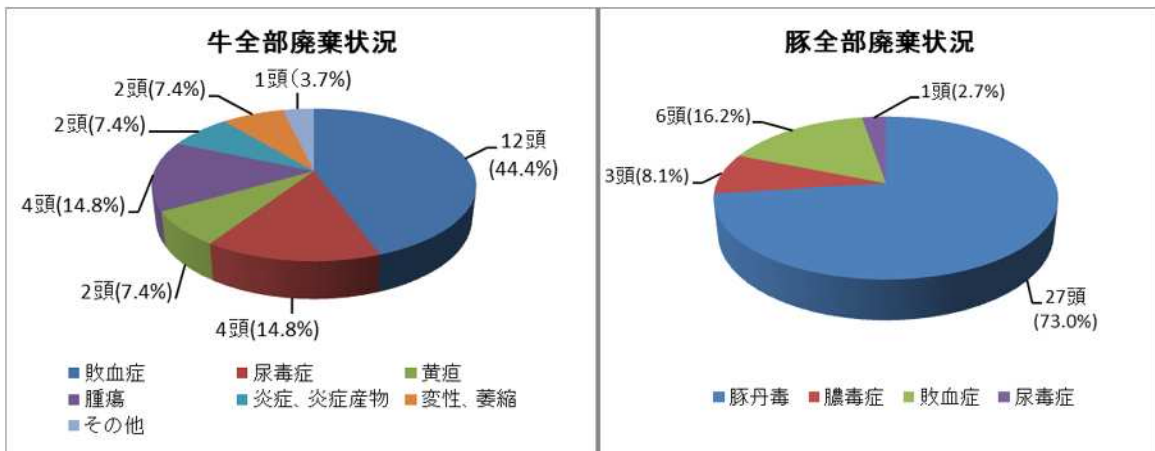
(3)月別検査頭数

| 月 | 区分 | 牛 | とく | 馬 | 豚 | めん羊 | 山羊 | 合計 |
|----|----|-------|----|-----|--------|-----|----|--------|
| 4 | | 322 | 3 | 55 | 4,334 | 4 | 0 | 4,718 |
| 5 | | 296 | 2 | 39 | 3,763 | 0 | 0 | 4,100 |
| 6 | | 227 | 2 | 57 | 3,840 | 4 | 0 | 4,130 |
| 7 | | 336 | 4 | 46 | 3,501 | 1 | 0 | 3,888 |
| 8 | | 301 | 1 | 62 | 3,842 | 1 | 0 | 4,207 |
| 9 | | 306 | 1 | 39 | 3,971 | 5 | 0 | 4,322 |
| 10 | | 371 | 7 | 41 | 4,002 | 2 | 0 | 4,423 |
| 11 | | 479 | 1 | 47 | 4,735 | 1 | 0 | 5,263 |
| 12 | | 307 | 2 | 58 | 4,414 | 0 | 0 | 4,781 |
| 1 | | 302 | 2 | 32 | 4,033 | 0 | 0 | 4,369 |
| 2 | | 231 | 7 | 29 | 3,634 | 5 | 0 | 3,906 |
| 3 | | 289 | 5 | 37 | 4,008 | 5 | 0 | 4,344 |
| 合計 | | 3,767 | 37 | 542 | 48,077 | 28 | 0 | 52,451 |



(4) とさつ禁止、廃棄状況

| 畜種 区分 | 牛 | | | とく | | | 馬 | | | 豚 | | | めん山羊 | | |
|--------------------|--------|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|
| | 禁 止 | 全 部 廃 棄 | 一 部 廃 棄 | 禁 止 | 全 部 廃 棄 | 一 部 廃 棄 | 禁 止 | 全 部 廃 棄 | 一 部 廃 棄 | 禁 止 | 全 部 廃 棄 | 一 部 廃 棄 | 禁 止 | 全 部 廃 棄 | 一 部 廃 棄 |
| 実 頭 数 | 0 | 24 | 2,014 | 0 | 0 | 22 | 0 | 1 | 214 | 0 | 37 | 38,697 | 0 | 0 | 2 |
| 豚 丹 毒 | | | | | | | | | | | 27 | | | | |
| トキソフ°ラス°マ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄 生 虫 病 | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 膿 毒 症 | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 敗 血 症 | | 12 | | | | | | | | | 6 | | | | |
| 尿 毒 症 | | 4 | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 黄 疸 | | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 水 腫 | | | 21 | | | | | | | | | | | | |
| 腫 瘍 | | 4 | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | |
| 放 線 菌 病 | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 炎症または炎症 産物による汚染 | | 2 | 1,337 | | | 13 | | | 206 | | | 38,277 | | | 2 |
| 変性または萎縮 | | 2 | 493 | | | 13 | | | | | | 22 | | | |
| そ の 他 | | 1 | 785 | | | 4 | | | 11 | | | 857 | | | |
| 計 | | 27 | 2,637 | | | 31 | | | 218 | | 37 | 39,156 | | | 2 |



(5) 病名別一部廃棄状況

| 病名 | | 畜種 | 牛 | とく | 馬 | 豚 | 山羊 | めん羊 |
|---------|-----------------|---------|-----|-----|-----|--------|----|-----|
| 循環器系 | 心 外 膜 炎 | | 100 | | | 1,363 | | |
| | 心 筋 変 性 | | 1 | | | | | |
| | 動 脈 炎 | | | 1 | | | | |
| | 心 内 膜 石 灰 沈 着 症 | | | 1 | | | | |
| | リ ン パ 節 膿 瘍 | | | | | 32 | | |
| 体腔 | 腹 膜 炎 | | 28 | | | 4 | | |
| | 汎 漿 膜 炎 | | 1 | | | 952 | | |
| | 腹 腔 内 膿 瘍 | | 2 | | | | | |
| 呼吸器系 | 萎 縮 性 鼻 炎 | | | | | 3 | | |
| | 肺 炎 | S E P | | | | 19,500 | | |
| | | 胸 膜 炎 型 | 15 | | 2 | 15,596 | | |
| | | 膿 瘍 型 | 15 | | | 174 | | |
| | | そ の 他 | 62 | 10 | 8 | 2 | | |
| | 血 液 吸 入 肺 | | | | | 415 | | |
| 肺 気 腫 | | 1 | | | | | | |
| 消化器系 | 舌 炎 | | | | | | | |
| | 舌 膿 瘍 | | | | | | | |
| | 胃 炎 | | 104 | 1 | | | | |
| | 胃 膿 瘍 | | 1 | | | | | |
| | 胃 腸 炎 | | 26 | 1 | | 47 | | |
| | 小 腸 炎 | | 30 | 1 | | 225 | | |
| | 大 腸 炎 | | 4 | | | 58 | | |
| | 抗 酸 菌 症 | | | | | 1,328 | | |
| | 腸 気 泡 症 | | | | | 28 | | |
| | へ ル 二 ア | | 0 | | | 3 | | |
| | 脂 肪 壊 死 症 | | 121 | | | | | |
| | 肝 炎 | 鋸 屑 肝 | 473 | | | | | |
| | | 膿 瘍 型 | 88 | | | 1 | | |
| | | 肝 硬 変 型 | 6 | | | 407 | | |
| | | 間 質 炎 型 | 100 | | 4 | 8,077 | | 1 |
| | | 包 膜 炎 型 | 189 | 2 | | 319 | | 1 |
| | | 胆 管 炎 型 | 52 | 1 | | | | |
| そ の 他 | | 242 | 1 | 7 | 947 | | | |
| 肝 変 性 | | 399 | 12 | | 407 | | | |
| 肝 富 脈 斑 | | 392 | 12 | | 407 | | | |
| 肝 砂 粒 症 | | | | 194 | | | | |

| 病名 | | 畜種 | 牛 | とく | 馬 | 豚 | 山羊 | めん羊 |
|--------|---------|------|---|----|-----|----|----|-----|
| 泌尿生殖器系 | 腎炎 | 出血型 | 4 | | | 2 | | |
| | | 膿瘍型 | 1 | | | 1 | | |
| | | 腎盂炎型 | | | | | | |
| | | 間質炎型 | | | | 9 | | |
| | | その他 | 1 | 1 | | 26 | | |
| | 萎縮腎 | | | | | | | |
| | 嚢胞腎 | 1 | | | 176 | | | |
| | 水腎症 | | | | 1 | | | |
| | 膀胱炎 | 1 | | | | | | |
| | 尿管結石 | | | | | | | |
| 乳房炎 | 子宮内膜炎 | 2 | | | | | | |
| | 膿瘍型 | | | | | | | |
| | 壊疽性型 | | | | | | | |
| その他 | 18 | | | | | | | |
| 運動器系 | 放線菌病 | 1 | | | | | | |
| | 頭膿瘍 | | | | | 1 | | |
| | 筋肉出血 | 148 | 3 | 5 | 434 | | | |
| | 筋肉变性 | 121 | 2 | | 13 | | | |
| | 筋肉膿瘍 | 19 | | | 721 | | | |
| | 筋肉壊死 | | 1 | | | | | |
| | 筋肉水腫 | 2 | | | | | | |
| | 皮下水腫 | 2 | | | | | | |
| | 皮下出血 | 142 | | 4 | | | | |
| | 皮下膿瘍 | 14 | | | | | | |
| | 手術創 | 86 | | | | | | |
| | 血腫 | 3 | | | | | | |
| | 骨折 | 14 | 5 | 2 | 21 | | | |
| | 脱臼 | 40 | | | | | | |
| | 関節炎 | 45 | | 1 | 34 | | | |
| フレグモ-ネ | | | | | | | | |
| 寄生虫 | 肝蛭症 | | | | | | | |
| | 豚肺虫症 | | | | | | | |
| | エキノコックス | | | | | | | |
| | ウマバエ | | | 1 | | | | |
| 腫瘍 | 黒色腫 | | | | | 16 | | |
| | その他 | | | 1 | 1 | | | |
| その他 | 横隔膜炎 | 13 | | | | | | |
| | 横隔膜水腫 | 11 | | | | | | |
| | 横隔膜癒着 | | | 1 | | | | |
| | 横隔膜膿瘍 | 35 | | | | | | |

(6) 衛生指導

・施設の拭き取り検査 「5.食肉衛生推進事業」の頁参照 (P 2-15)

・監視日数

と畜場 . . . 254日

併設加工施設 . . . 10日

(7) フィードバック事業

希望生産者へ毎月1回検査結果をフィードバック

牛対象農家 6戸

豚対象農家 23戸

3. 食鳥関係

大規模食鳥処理場において食鳥処理法に基づく検査を行うとともに、山梨県食品衛生監視指導計画に基づき、ふきとり検査結果等による食鳥処理場及び併設する食肉処理施設の監視指導、動物用医薬品を対象とした残留検査を実施した。

さらに、サルモネラ及びカンピロバクターの保菌調査や食鳥検査結果等のフィードバックを定期的に行うなど、生産サイドとの連携を強化した。

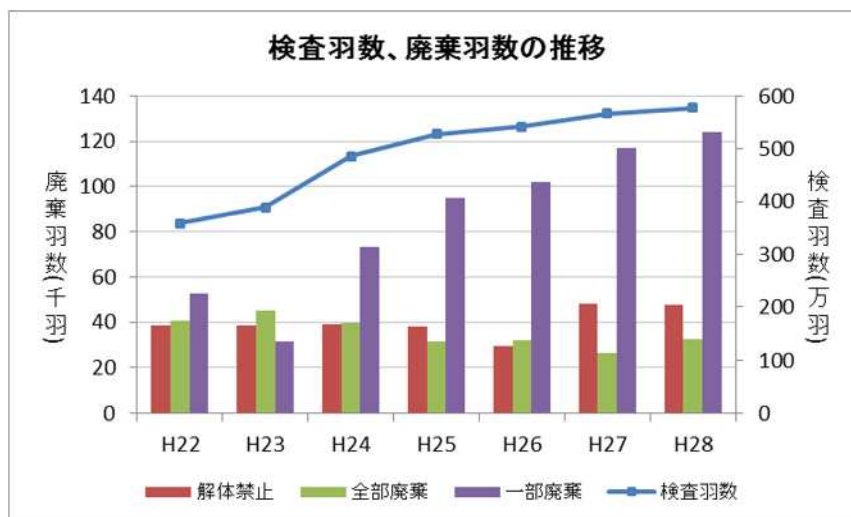
(1) 年度別検査羽数及び廃棄状況

年度別検査羽数

| 項目 \ 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 出荷羽数 | 3,599,380 | 3,899,930 | 4,873,721 | 5,290,764 | 5,425,600 | 5,685,691 | 5,791,179 |
| へい死羽数 | 9,950 | 6,513 | 9,906 | 13,045 | 8,897 | 12,396 | 17,287 |
| 検査羽数 | 3,589,430 | 3,893,417 | 4,863,815 | 5,277,719 | 5,416,703 | 5,673,295 | 5,773,892 |

年度別廃棄状況

| 項目 \ 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|---------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 解体禁止合計 | 38,447 | 38,507 | 38,920 | 37,874 | 29,458 | 47,986 | 47,616 |
| 全部廃棄合計 | 40,414 | 45,033 | 39,561 | 31,316 | 31,950 | 26,360 | 32,712 |
| 部分廃棄合計 | 52,412 | 31,698 | 73,393 | 95,006 | 101,791 | 117,051 | 123,920 |

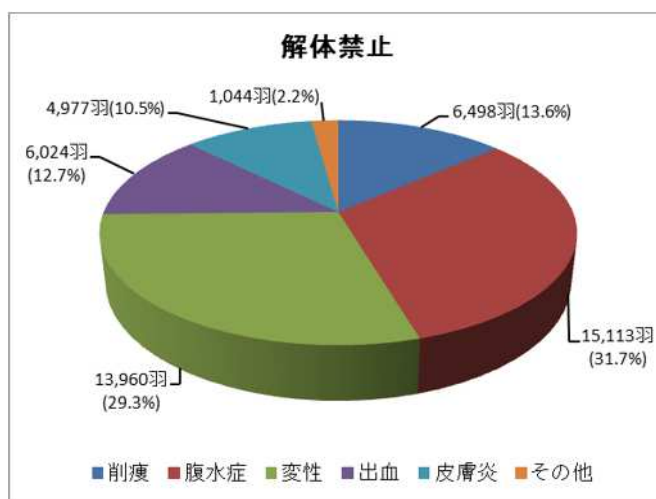


(2) 平成 28 年度検査結果

| 解体禁止 | | | | | | | | | | | | 解体禁止合計 |
|-------|------|--------|-------|--------|-------|-------|-----|----|----|------|-----|--------|
| 削瘦 | 放血不良 | 腹水症 | マレック病 | 変性 | 出血 | 皮膚炎 | 関節炎 | 黄疸 | 外傷 | 湯漬過度 | その他 | |
| 6,498 | 223 | 15,113 | 3 | 13,960 | 6,024 | 4,977 | 131 | 5 | 27 | 597 | 58 | 47,616 |

解体禁止率は、0.82%（解体禁止羽数 / 検査羽数）で、前年度(0.85%)と同程度である。

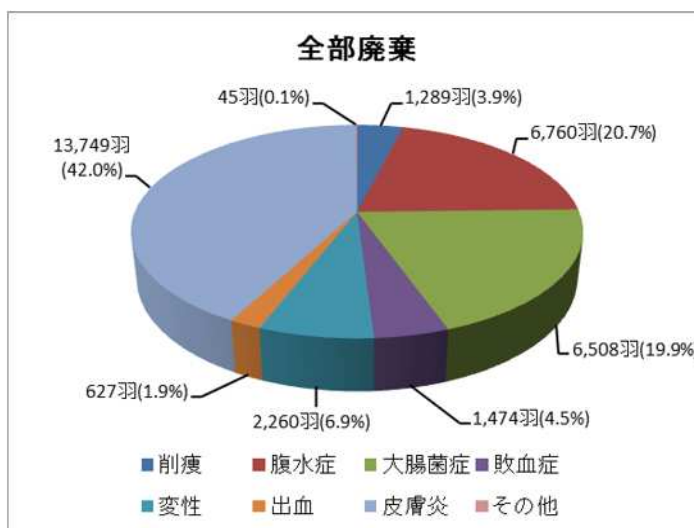
主な疾病は、腹水症、変性、削瘦、出血で、皮膚炎の割合は減少したが、腹水症、出血の割合が増加した。



| 全部廃棄 | | | | | | | | | | | | 全部廃棄合計 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|--------|-----|----|-----|--------|
| 削瘦 | 放血不良 | 腹水症 | マレック病 | 大腸菌症 | 敗血症 | 変性 | 出血 | 皮膚炎 | 関節炎 | 黄疸 | その他 | |
| 1,289 | 2 | 6,760 | 20 | 6,508 | 1,474 | 2,260 | 627 | 13,749 | 12 | 0 | 11 | 32,712 |

全部廃棄率は、0.57%（全部廃棄羽数 / 検査羽数）で、前年度(0.46%)よりやや増加した。

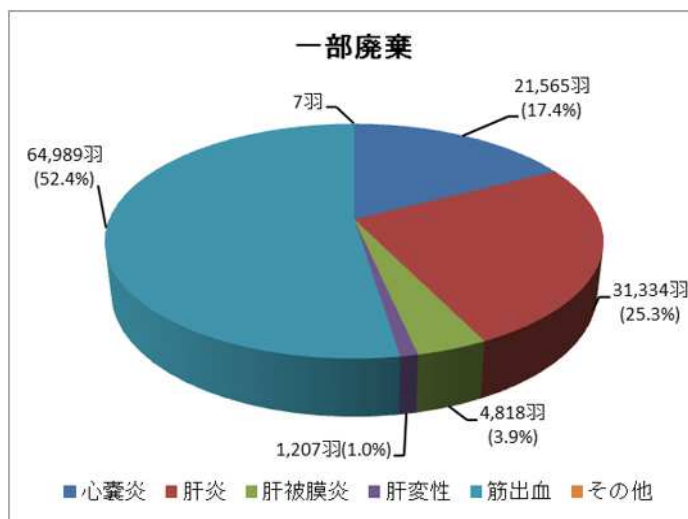
主な疾病は、皮膚炎、腹水症、大腸菌症で、腹水の割合は減少したが、皮膚炎・大腸菌症の割合が増加した。



| 一部廃棄 | | | | | | | | | | | | 一部廃棄合計 |
|--------|--------|-------|-------|------|----|-----|--------|----|-----|----|-----|---------|
| 心嚢炎 | 肝炎 | 肝被膜炎 | 肝変性 | 脾の腫大 | 腸炎 | 関節炎 | 筋出血 | 骨折 | 皮膚炎 | 腫瘍 | その他 | |
| 21,565 | 31,334 | 4,818 | 1,207 | 3 | 0 | 0 | 64,989 | 1 | 0 | 0 | 3 | 123,920 |

一部廃棄率は 2.1% (一部廃棄羽数 / 検査羽数) で、前年度(2.1%)と同程度である。

主な疾病は筋出血、肝炎、心嚢炎で、筋出血の割合が減少し、心嚢炎の割合が増加した。



(3) 衛生指導

- ・施設の拭き取り検査 「5.食肉衛生推進事業」の頁参照 (P 2-15)

- ・食鳥処理施設の衛生監視指導

食鳥処理場・・・ 279 日

併設加工施設・・・ 65 日

(4) フィードバック事業

食鳥処理場を介して生産者へ毎月 1 回検査結果をフィードバック

対象農家 37 戸

4. 精密検査関係

疾病排除を目的とした各種疾病診断、微生物汚染防止のための枝肉や施設のふきとり検査および保菌調査、有害物質排除のための残留抗菌物質検査、TSE検査等を実施した。

また、食品衛生報に基づく検査は、試験検査に関する業務管理要領に基づき検査の精度管理を行った。

(1) 精密検査実施状況

| 検査室名 | 区分 | 行政検査 | | | 調査研究 | | | 合計 | | |
|--------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
| | | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 |
| 理化学検査室 | 食肉関係 | 308 | 610 | 5,052 | 0 | 0 | 0 | 308 | 610 | 5,052 |
| | 食鳥関係 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 308 | 610 | 5,052 | 0 | 0 | 0 | 308 | 610 | 5,052 |
| 病理検査室 | 食肉関係 | 6 | 57 | 81 | 15 | 31 | 32 | 21 | 88 | 113 |
| | 食鳥関係 | 0 | 0 | 0 | 4 | 7 | 7 | 4 | 7 | 7 |
| | 小計 | 6 | 57 | 81 | 19 | 38 | 39 | 25 | 95 | 120 |
| 生物科学検査室 | 食肉関係 | 250 | 758 | 2,546 | 15 | 447 | 662 | 265 | 1,205 | 3,208 |
| | 食鳥関係 | 58 | 188 | 1,464 | 2,532 | 2,106 | 9,790 | 2,590 | 2,294 | 11,254 |
| | 小計 | 308 | 946 | 4,010 | 2,547 | 2,553 | 10,452 | 2,855 | 3,499 | 14,462 |
| TSEスクリーニング検査 | 牛 | 1,255 | 1,255 | 1,270 | 0 | 0 | 0 | 1,255 | 1,255 | 1,270 |
| | 緬・山羊 | 4 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 4 |
| | 小計 | 1,259 | 1,259 | 1,274 | 0 | 0 | 0 | 1,259 | 1,259 | 1,274 |
| 小計 | 食肉関係 | 1,823 | 2,684 | 8,953 | 30 | 478 | 694 | 1,853 | 3,162 | 9,647 |
| | 食鳥関係 | 58 | 188 | 1,464 | 2,536 | 2,113 | 9,797 | 2,594 | 2,301 | 11,261 |

(2) 各検査室における検査内容

理化学検査室

血液検査を全自動血球計数器と多項目自動血球計数装置を用いて実施し診断の

平成27年度畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査は、抗生物質以外の物質の検査を県衛生環境研究所で実施した。

【行政検査】

| 検査内容 | 畜種 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 |
|--------|----|------|-----|-------|
| 黄疸判定 | 牛 | 2 | 2 | 2 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| 尿毒症の判定 | 牛 | 4 | 4 | 4 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| 血液検査 | 牛 | 302 | 604 | 5,046 |
| | 馬 | 0 | 0 | 0 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 308 | 610 | 5,052 |

病理検査室

食肉及び食鳥検査において病理組織学的検査が必要と認められる疾病が発見された場合、検査を行い診断の一助としている。

【行政検査】

| 検査内容 | 畜種 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 |
|------|----|------|-----|-----|
| 炎症 | 牛 | 0 | 0 | 0 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| | 馬 | 0 | 0 | 0 |
| | 鶏 | 0 | 0 | 0 |
| 変性 | 牛 | 0 | 0 | 0 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| | 馬 | 0 | 0 | 0 |
| | 鶏 | 0 | 0 | 0 |
| 腫瘍 | 牛 | 4 | 34 | 42 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| | 馬 | 2 | 23 | 39 |
| | 鶏 | 0 | 0 | 0 |
| 奇形 | 牛 | 0 | 0 | 0 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| | 馬 | 0 | 0 | 0 |
| | 鶏 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 牛 | 0 | 0 | 0 |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 |
| | 馬 | 0 | 0 | 0 |
| | 鶏 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 6 | 57 | 81 |

【調査研究】

| 検査内容 | 畜種 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 |
|--------|----|------|-----|-----|
| 病理研修会等 | 牛 | 4 | 8 | 8 |
| | 豚 | 7 | 15 | 15 |
| | 馬 | 4 | 8 | 9 |
| | 鶏 | 4 | 7 | 7 |
| 合計 | | 19 | 38 | 39 |

生物科学検査室

解体後の検査において細菌性の疾病を疑った場合、病原菌の分離・同定等の微生物検査を実施し、診断の一助としている。また、食肉・食鳥関係施設および輸送車のふきとり検査を実施し、衛生指導に活用した。

【行政検査】

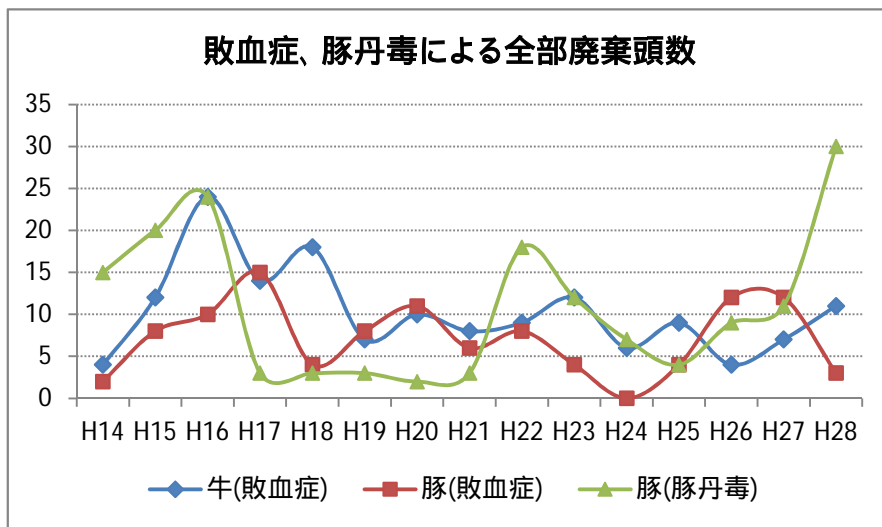
| 検査内容 | 種別 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 | |
|-------------------------|--------|------|-----|-------|-------|
| 敗血症の検査 | 牛 | 12 | 72 | 288 | |
| | 豚 | 3 | 18 | 72 | |
| 豚丹毒の検査 | 豚 | 60 | 183 | 732 | |
| 牛白血病の検査 | 牛 | 4 | 25 | 50 | |
| 0157等枝肉ふきとり検査 | 牛 | 30 | 60 | 360 | |
| ふきとり検査 (枝肉又は食鳥と体、施設) | 牛 | 0 | 0 | 0 | |
| | 馬 | 31 | 62 | 124 | |
| | 豚 | 0 | 0 | 0 | |
| | 鶏 | 48 | 12 | 96 | |
| | 食肉関係施設 | | | 54 | 162 |
| | 食鳥関係施設 | | | 156 | 1,248 |
| 残留抗菌性物質検査 (モニタリング検査) | 牛 | 10 | 20 | 120 | |
| | 豚 | 10 | 20 | 120 | |
| | 鶏 | 10 | 20 | 120 | |
| 厚生労働省ふきとり | 牛 | 25 | 50 | 100 | |
| | 豚 | 25 | 50 | 100 | |
| G F A P 検査 | 牛 | 40 | 80 | 80 | |
| 外部精度管理 | | | 4 | 28 | |
| 内部精度管理 | | | 60 | 210 | |
| 合計 | | 308 | 946 | 4,010 | |

【調査研究】

| 検査内容 | 種別 | 検査頭数 | 検体数 | 検査数 |
|--------------------------|----|-------|-------|--------|
| カンピロバクター保菌調査 | 鶏 | 1,070 | 107 | 535 |
| カンピロバクター農場調査 | 鶏 | | 117 | 585 |
| カンピロバクター定量検査 | 鶏 | 196 | 96 | 2,112 |
| カンピロバクター遺伝子解析 | 鶏 | | 87 | 522 |
| サルモネラ保菌調査 | 鶏 | 1,070 | 107 | 749 |
| サルモネラ農場調査 | 鶏 | | 117 | 819 |
| サルモネラ定量検査 | 鶏 | 196 | 96 | 2,400 |
| サルモネラ菌株保存 | 食鳥 | | 1,250 | 1,250 |
| サルモネラパルスフィールド検査 | 食鳥 | | 52 | 52 |
| サルモネラ薬剤感受性試験 | 食鳥 | | 80 | 960 |
| 腸管出血性大腸菌保菌調査 | 牛 | 15 | 15 | 90 |
| E S B Lスクリーニング試験 | 食鳥 | | 80 | 320 |
| A m p C 確認試験 | 食鳥 | | 4 | 8 |
| A T P による 施設及び手指の汚染調査 | 食肉 | | 432 | 572 |
| | 食鳥 | | 187 | 287 |
| 合計 | | 2,547 | 2,827 | 11,261 |

敗血症及び豚丹毒による処分頭数の年計推移(過去15年間)

| 処分理由 | 種別 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 敗血症 | 牛 | 4 | 12 | 24 | 14 | 18 | 7 | 10 | 8 | 9 | 12 | 6 | 9 | 4 | 7 | 11 |
| | とく | | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | |
| | 馬 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 豚 | 2 | 8 | 10 | 15 | 4 | 8 | 11 | 6 | 8 | 4 | | 4 | 12 | 12 | 3 |
| 豚丹毒 | 豚 | 15 | 20 | 24 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 18 | 12 | 7 | 4 | 9 | 11 | 30 |



5. 食肉衛生推進事業

食肉の衛生的な処理及び取扱いについて、食肉処理業者及び取扱者に対し普及啓発を図るとともに、消費者の食肉衛生に対する理解を深め、より安全な食肉を提供することを目的として年間を通じて食肉処理施設のふきとり検査や衛生講習会を実施した。特に平成 28 年 8 月 1 日から 8 月 31 日までを食肉衛生推進運動の期間と定め、食肉輸送車のふきとり検査を実施するとともに、食品衛生に関する研修会を開催した。

食肉処理場関係

| 項目 | 事業 | | 期間 | 検体数 | 検査数 |
|----|------------------|---------|---------------|-----|-----|
| 検査 | スタンプ検査 ふき取り検査 | 施設（と畜場） | H28.8.8～8.22 | 29 | 87 |
| | | 施設（加工室） | H28.8.16 | 15 | 45 |
| | A T P 検査 | 輸送車 | H28.7.28～9.13 | 30 | 95 |
| | | 手指 | H28.8.8～8.24 | 38 | 56 |
| | | 施設（と畜場） | H28.8.8～8.22 | 29 | 29 |
| | | 施設（加工室） | H28.8.16 | 15 | 15 |

| 項目 | 事業 | 期間 | 参加人数 | 対象 |
|-----|--------|----------|------|-----------------------|
| 講習会 | 管理者講習会 | H28.9.14 | 9名 | と畜場及び併設する食肉処理施設の管理者職員 |
| | 従業員講習会 | H28.10.5 | 25名 | と畜場及び併設する食肉処理施設の従業員 |

食鳥処理場関係

| 項目 | 事業 | | 期間 | 検体数 | 検査数 |
|----|----------|-----|---------------|-----|-----|
| 検査 | ふき取り検査 | 輸送車 | H28.8.16～8.26 | 18 | 54 |
| | | と体 | H28.8.1 | 9 | 36 |
| | | 施設 | H28.8.1 | 39 | 138 |
| | A T P 検査 | 輸送車 | H28.8.16～8.26 | 18 | 54 |
| | | 手指 | H28.8.4 | 77 | 77 |

| 項目 | 事業 | 期間 | 参加人数 | 対象 |
|-----|--------|----------|------|-------------------------|
| 講習会 | 管理者講習会 | H28.8.17 | 13名 | 食鳥処理場及び併設する食肉処理施設の管理者職員 |
| | 従業員講習会 | H28.8.25 | 62名 | 食鳥処理場及び併設する食肉処理施設の従業員 |

6. 研修

関係機関が開催する各種の県外研修に参加し、検査員の資質向上を図った。

また、基礎的知識、技能の習得のため、所内研修会を実施した。

| 月 日 | 出張 内 容 | 場 所 |
|------------------|------------------------------|------|
| H28/ 5/19 ~ 5/20 | 全国食肉衛生検査所協議会病理部会第72回病理研修会 | 神奈川県 |
| 5/27 | 食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会 | 東京都 |
| 6/3 | 第206回つくば病理談話会 | 茨城県 |
| 6/16 | と畜場等へのHACCP導入に係る研修会 | 千葉県 |
| 6/17 | 第280回鶏病事例検討会 | 茨城県 |
| 6/22 | 基礎からわかるリアルタイムPCR ハンズトレーニング | 東京都 |
| 7/13 | 第105回ルミテスターセミナー | 東京都 |
| 7/22 | 先進地視察研修（食鳥処理場） | 岩手県 |
| 8/5 | 第207回つくば病理談話会 | 茨城県 |
| 8/26 | 全国食品衛生監視員協議会第56回関東ブロック研修大会 | 神奈川県 |
| 9/15 ~ 9/16 | 第37回日本食品微生物学会学術総会 | 東京都 |
| 10/7 | 第34回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会及び研修会 | 茨城県 |
| 10/26 | 関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会業績発表会 | 群馬県 |
| 10/27 ~ 10/28 | 全国食品衛生監視員研修会 | 東京都 |
| 10/28 | 動物由来感染症対策技術研修会 | 東京都 |
| 10/31 ~ 11/1 | 先進地視察研修（食肉処理場） | 熊本県 |
| 11/9 | 全国食肉衛生検査所協議会微生物部会第36回総会及び研修会 | 神奈川県 |
| 11/16 ~ 11/17 | 全国食肉衛生検査所協議会病理部会第73回病理研修会 | 神奈川県 |
| H29/ 1/23 ~ 24 | 食肉衛生技術研修会・衛生発表会 | 東京都 |
| 1/25 ~ 26 | 食鳥肉衛生技術研修会・衛生発表会 | 東京都 |

第 3 章 調査・研究発表

(平成 28 年度関東・東京地区獣医公衆衛生学会)

山梨県内の食鳥処理場搬入鶏から分離された *Salmonella* Agona の薬剤感受性及び分子疫学的検討

赤塚唯¹⁾ 北爪美帆²⁾ 内田幸¹⁾

1)山梨県食肉衛検、2)山梨県動物愛護指導センター

はじめに

当検査所は管内大規模食鳥処理場の衛生管理の一環として、搬入鶏のサルモネラ保菌調査を実施している。これまで主に *Salmonella* Infantis(以下 *S. I*)が検出されていたが、平成 20 年に初めて *Salmonella* Agona(以下 *S. A*)が検出された。その後、検出率が増加し、複数の県にわたる多数の農場において *S. A* が検出されるようになった。そこで、検出された *S. A* の関係性を調査するため、薬剤感受性試験およびプラスミドプロファイル(以下 PP)、パルスフィールドゲル電気泳動(以下 PFGE)による分子疫学的検討を行った。

材料および方法

平成 20 年 4 月から平成 27 年 3 月に搬入された鶏の盲腸便から分離した *S. A*55 株を供試菌株とした。薬剤感受性試験はセンシディスク(BBL)を用い K-B 法で実施した。供試薬剤は、ノルフロキサシン(NFLX)、シプロフロキサシン(CPFX)、ホスホマイシン(FOM)、アンピシリン(ABPC)、クロラムフェニコール(CP)、テトラサイクリン(TC)、カナマイシン(KM)、ST 合剤(ST)、ナリジクス酸(NA)、ゲンタマイシン(GM)、セフトキシム(CTX)、ストレプトマイシン(SM)の 12 薬剤を用いた。PP は関崎の変法に従い実施した。PFGE は国立感染症研究所のプロトコールに準拠し、制限酵素 *Bln I* 処理により実施した。

成績

薬剤感受性試験では、供試菌株の 54 株(98.2%)がいずれかの薬剤に耐性を示した。TC 耐性株が 52 株(94.5%)と最も多く、次いで SM 耐性株が 32 株(58.2%)であった。また、KM 耐性株および CTX 耐性株はともに 2 株(3.6%)であった。3 剤以上に耐性を持つ株は平成 21 年から平成 26 年の間に 1 株(1.8%)から 5 株(9.1%)と増加傾向にあった。プラスミドは供試菌株全てが保有し、52 株(94.5%)が同一パターンを示した。PFGE は 45 株(81.8%)が同一パターンを示し、6 株(10.9%)はこれと近似度が高いパターンを示した。

考察

国内プロイラーから分離されるサルモネラの主な血清型は *S. I* であり、TC、SM、KM への耐性率が高いとの報告がある。検出された *S. A* は TC、SM については *S. I* と同様に耐性率が高かったが、KM の耐性率は低かった。また、今回、第 3 世代セフェム系薬剤である CTX の耐性株の出現が確認された。CTX に耐性を示す ESBL 産生大腸菌が国内で増加しているとの報告があり、*S. A* においても CTX 耐性菌の増加の可能性が示唆された。

PP および PFGE は大半が同一パターンを示した。これらのことから、同一タイプの *S. A* の汚染が拡大していることが示唆され、農場に共通する汚染源および経路を介し、汚染が拡大している状況が推察された。

(平成28年度関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会業績発表会)

(平成28年度食鳥肉衛生発表会)

大規模食鳥処理場に出荷された銘柄鶏のカンピロバクター保有状況と農場における汚染状況

松原翔吾、大橋啓佑、赤塚唯、
北爪美帆、村本修、外川京平、
内田幸、藤巻勤
現山梨県動物愛護指導センター

はじめに

当検査所が管轄する大規模食鳥処理場では、ブロイラー以外に銘柄鶏と地鶏が定期的に搬入されており、カンピロバクター保菌状況について継続的に調査している。地鶏、銘柄鶏はブロイラーに比べ保菌率が高く、菌種も *Campylobacter jejuni* (以下C.j という。)と同数程度の *C. coli* (以下C.c という。)を保菌していることが確認されている⁽¹⁾。

今回、銘柄鶏農場から搬入された鶏のカンピロバクター汚染源の解明を目的に、銘柄鶏農場における汚染状況を調査し、検出されたカンピロバクターの血清型別および遺伝子型別を実施したので報告する。

材料及び方法

1. 調査期間

農場の聞き取り調査は平成27年9月に実施し、細菌検査は平成27年11月9日から平成28年3月14日の期間行った。

2. カンピロバクター保菌調査

期間中銘柄鶏農場から出荷された4鶏舎4ロットの盲腸内容物10羽分をプールして1検体とし、定法に従い分離した。

3. 農場調査

銘柄鶏農場の施設の状況、飼養管理状況を聞き取り調査するとともに、経時的に10鶏舎の敷料47検体、同一敷地内の繁殖豚舎内の便16検体を保菌調査と同じ方法で分離した。

4. 血清型別

分離したC.jについて、市販のカンピロバクター免疫血清(デンカ生研)を用いてPennerの血清型別試験を実施した。

5. 遺伝子型別

分離したカンピロバクターについて、flagel line A 遺伝子をターゲットとし既報のPCR-RFLP法⁽¹⁾によるタイピングを行った。

成 績

1. カンピロバクター保菌調査

4鶏舎4ロットすべてからカンピロバクターが分離され、全ロットからC.jとC.cが分離された。

2. 農場汚染状況調査

銘柄鶏農場は7棟の鶏舎をそれぞれ2分割して、14鶏舎として

表1 銘柄鶏農場のカンピロバクター汚染状況

| | 検体数 | C.jejuni | C.coli |
|------|-----|----------|--------|
| 2A鶏舎 | 6 | 6 | 2 |
| 3A鶏舎 | 2 | 2 | 0 |
| 4A鶏舎 | 7 | 4 | 0 |
| 4B鶏舎 | 3 | 2 | 2 |
| 5A鶏舎 | 6 | 4 | 0 |
| 5B鶏舎 | 3 | 3 | 0 |
| 6A鶏舎 | 6 | 5 | 0 |
| 6B鶏舎 | 3 | 1 | 0 |
| 7A鶏舎 | 4 | 1 | 0 |
| 8A鶏舎 | 7 | 5 | 0 |
| 豚舎 | 16 | 1 | 13 |

いた。他の施設は繁殖母豚舎 1 舎、育成豚舎 3 舎、飼料置き場、堆肥置き場、事務所で構成され、塩素滅菌した井戸水を使用していた。農場入口と各鶏舎の入口には踏み込み消毒槽は設置されていたが、履き替え等をするスペースは設けられていなかった。また、作業員は豚と鶏で分けられているが、豚舎と鶏舎は隣接して配置されているため同様の通路等を使用していた。鶏舎は 2,000 羽導入し、約 80 日飼養した後、1 回に約 500 羽出荷し、全数出荷後に敷料を搬出し石灰による消毒を行っていた。

鶏舎の敷料 47 検体中 33 検体からカンピロバクターが分離され、内訳は C.j が 33 株、C.c が 4 株であった。また、豚舎の便 16 検体中 13 検体からカンピロバクターが分離され、内訳は C.j が 1 株、C.c が 13 株であった。鶏舎ごとの分離状況は表 1 のとおりであった。

3. 血清型別

検出された C.j の血清型別を実施したところ、保菌調査では 4 種類の血清型 C・D・Y・V 群がそれぞれ 1 株ずつ検出された。農場調査では 9 種類の血清型が検出され、血清型 C 群が 9 株、血清型 D・F・R 群がそれぞれ 4 株、血清型 Y 群・Z7 群がそれぞれ 3 株、血清型 E・J・P 群がそれぞれ 1 株検出され、不定が 4 株あった(表 2)。

4. 遺伝子型別試験

PCR-RFLP を行ったところ、C.j は 6 つのパターンを検出した。その中でも、P1・P3・P5 と P4・P6 はそれぞれ類似していた(図 1)。鶏舎ごとと比較すると、同じパターンを継続して示す鶏舎と、複数のパターンを示す鶏舎があった。また、処理場に搬入された鶏の盲腸便からは鶏

舎で示したパターンと同じものが確認された(表 3)。豚舎から検出された C.c のパターンは一部同じパターンを示すものもあったが多様なパターンが認められた。鶏舎から検出された C.c は豚舎と同じパターンは認められなかった(図 2)。

考 察

今回の保菌調査では、全検体から C.c が検出されており多数の鶏舎が C.c に汚染されている状況が確認できた。併設されている豚舎から継続的に検出されている C.c の PCR-RFLP 像は多様なパターンを示し、銘柄鶏から検出された C.c のパターンと一致するものは無かったが、鶏舎と豚舎が隣接し作業動線も交差していること、鶏舎が開放型であること、鶏舎入り口で履物を履き替える様式になっていないことなど、衛生管理状況から推察すると銘柄鶏から検出された C.c は豚舎由来のものと考えられた。

今回検出した C.j の血清型は、全国的な食中毒事例から検出される型や他の報告とも類似していた〔2〕〔3〕。PCR-RFLP の結果において、鶏舎から検出されるカンピロバクターは複数のタイプがあるが、

表2 血清型別試験結果

| | C | D | F | R | Y | Z7 | E | P | J | V | 不定 |
|----|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----|
| 保菌 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | 1 | |
| 2A | 4 | 1 | | | | | | 1 | | | |
| 3A | | | 1 | | | 1 | | | | | |
| 4A | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | | | | |
| 4B | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 5A | 1 | 2 | | 1 | | | | | | | |
| 5B | | | | | | | | | | | 1 |
| 6A | | 1 | 1 | 2 | | | | | 1 | | |
| 6B | | | | 1 | | | | | | | |
| 7A | | | | | | 1 | | | | | |
| 8A | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | | 1 |
| 豚舎 | | | | | | | | | | | 1 |

表3 保菌、鶏舎ごとのPCR-RFLP像

| | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 保菌 | 2 | | | 1 | 1 | |
| 2A | 5 | | | | | |
| 3A | | 1 | | 1 | | |
| 4A | 1 | 1 | 2 | | | |
| 4B | 1 | | | | | 1 |
| 5A | | 2 | 1 | 1 | | |
| 5B | 1 | 1 | 1 | | | |
| 6A | 1 | 3 | | | | |
| 8A | 1 | 2 | 2 | | | |

遺伝子型別を行った検体に限る

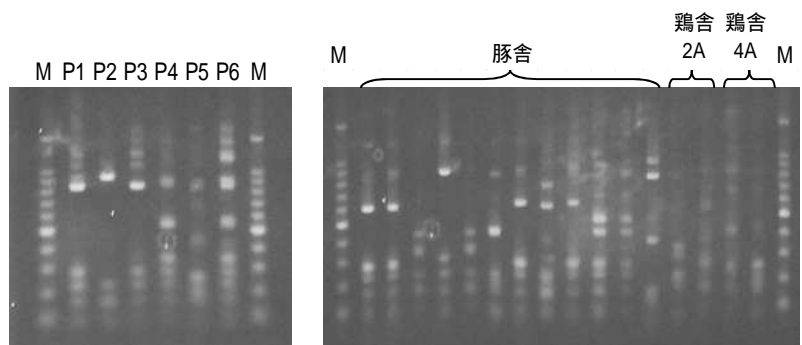


図1 C.jejuniのPCR-RFLP像

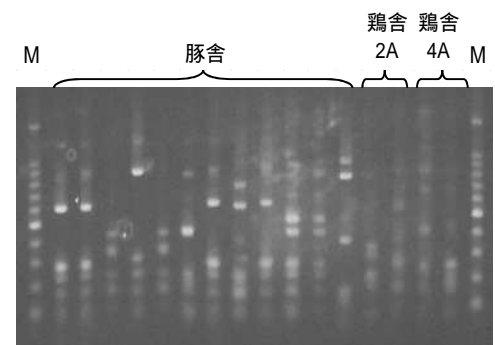


図2 C.coliのPCR-RFLP像

一つの鶏舎に複数のタイプのカンピロバクターが入れ替わり汚染するのではなく、一度鶏舎を汚染したカンピロバクターは持続的に鶏に保持されていた。そして、汚染された鶏舎から他の鶏舎に汚染が広がり農場全体として複数のカンピロバクターに持続的に汚染されている状況が確認できた。

まとめ

今回の調査から、銘柄鶏から検出される C.c は豚舎からの汚染の可能性が高いことが推察された。また、C.j は複数のタイプの株が農場を広く汚染していることが確認できた。今後は、今回のデータを活用して豚舎から鶏舎、鶏舎から鶏舎への汚染の拡大を防止するとともに、食鳥処理場での区分処理の導入など、農場から処理場までが一体となったカンピロバクター汚染防止対策を図っていく必要がある。

- 〔1〕藤巻勤，北爪美帆，吉野恵子：山梨県内の食鳥処理場に搬入された地鶏、銘柄鶏のカンピロバクター汚染の原因解明，平成 27 年度食鳥肉衛生技術研修会・衛生発表会，70-72（2016）
- 〔2〕小野一晃，斎藤志保子，川森文彦，後藤公吉，重茂克彦，品川邦汎：市販鶏肉におけるカンピロバクターの定量検査と分離菌株の血清型，日獣会誌，57，595-598（2004）
- 〔3〕中岡加陽子，桑田昭，河島眞由美，田中敬子：食鳥処理場及び市販鶏肉におけるカンピロバクター汚染状況の解析，和歌山県環境衛生研究センター年報，61，43-48（2015）

(全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 第72回研修会)

演題：豚の肝臓

機関名：山梨県食肉衛生検査所

氏名：岡林 一美

動物名：豚 品種：LW 性別：雌 日齢：不明

生体検査：一般畜（繁殖豚）として搬入。生体検査では異常を認めなかった。

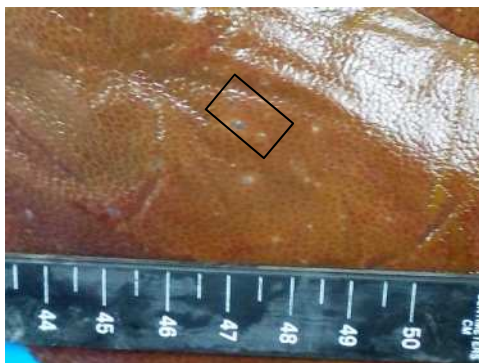
肉眼所見：肝臓の横隔面、臓側面ともに直径約1mmの嚢胞が多発し、嚢胞は肝臓表面からわずかに隆起していた。嚢胞と肝実質との境界は明瞭で、断面にも嚢胞は認められた。穿刺すると中から無色透明な液体が流出した。その他の臓器では胸膜炎が認められた。

組織所見：嚢胞は壁を単層扁平上皮で内張りされた膠原線維からなっていた。嚢胞は肉眼的に見えるものだけでなく、肝小葉よりも小さく微細な嚢胞も認められた。嚢胞壁の膠原線維は部分的にグリソン鞘と連続していた。嚢胞周囲の肝組織は圧迫されていた。

また、肝実質には肝細胞の核よりやや大きな空胞をもち、核を一側にする細胞が多く見られた。

固定方法：10%中性緩衝ホルマリン

切り出し部位(図示)



行政処分：一部廃棄（肝臓）

組織診断名：豚の多発性肝嚢胞

疾病診断名：豚の嚢胞肝

(全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 第 73 回研修会)

演 題：馬の肝臓

機関名：山梨県食肉衛生検査所

氏名：岡林 一美

動物名：馬 品種：軽種 性別：雄 年齢：5 歳

生体検査：一般畜として搬入。生体検査では異常を認めなかった。

肉眼所見：肝臓の表面に白色網目状の病変が多発し、特に臓側面に多く見られ、肝臓が硬結感を増していた。断面では、病変が内部まで認められ、顕著に現れている部位では、胆管の肥厚と増生が見られた。その他の臓器に異常は認められなかった。

組織所見：小葉間結合組織内に、広範囲で膠原線維が増生し、内部に高度な好酸球の集簇が見られた。一部の胆管内部では、リンパ球、マクロファージ、好酸球等の炎症細胞および胆管上皮細胞を認め、それらの胆管周囲にも好中球を含む炎症細胞が浸潤し、多数の小葉間胆管の増生が見られた。また、小葉間動脈の増生および筋層の肥厚が認められた。

固定方法：10 % 中性緩衝ホルマリン

切り出し部位(図示)



行政処分：一部廃棄 (肝臓)

組織診断名：胆管の増生をともなう好酸球性間質性肝炎

疾病診断名：馬の間質性肝炎